掛川市「考古の日」記念

第 15 回
出 土 文 化 財 展

と　き：平成12年４月28日（金）～30日（日）
ところ：エレパークギャラリー

竪穴（たてあな）住居跡群（堂山遺跡）

２０００

掛川市教育委員会

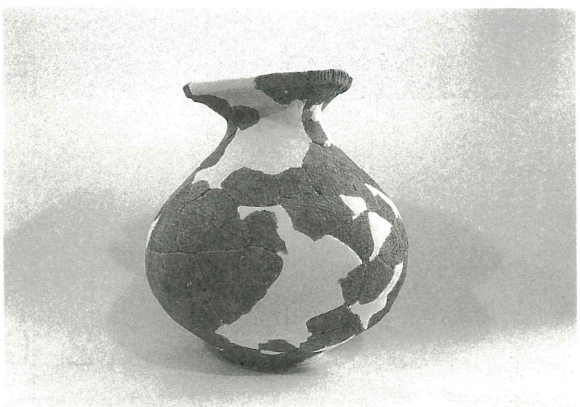
1．堂山遺跡

1．調　査　地	掛川市原里1688-4ほか
2．調査の原因	県道新設工事
3．調査の面積	１，６４４㎡
4．調査の期間	平成11年７月～９月
5．調査の内容	調査では、弥生時代の中期から後期（約2,000～1,700年前）の竪穴住居跡３、古墳時代前期（約1,600年前）の竪穴住居跡１、古墳時代前期の方形周溝墓１、平安時代後半（約900年前）の墓１、時期不明の掘立柱建物跡１などが確認されました。 遺物には、縄文時代の土器・石器、弥生時代から古墳時代前期の土器・砥石、平安時代の陶器・中国製白磁などがあります。

焼け落ちた竪穴住居跡

墓内の中国製白磁

石器（左：石斧、右：石錘）



方形周溝墓に供えられていた土器

2. 三十八坪遺跡（さんじゅうはちのつぼ）・三十八坪横穴群（よこあなぐん）

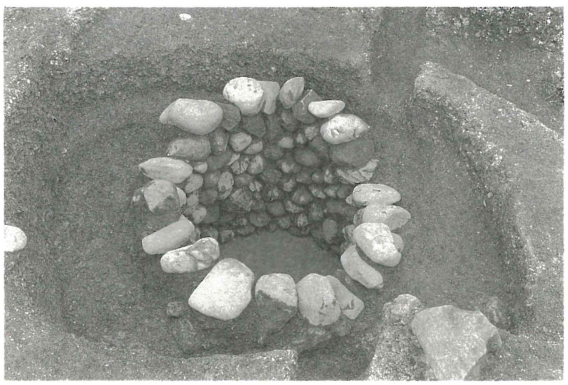
1．調　査　地　　掛川市大池２２５７ほか
2．調査の原因　　体育館建設に先立つ確認調査
3．調査の面積　　１３０㎡
4．調査の期間　　平成12年１月～３月
5．調査の内容　　今回の確認調査により、古墳時代前期の竪穴（たてあな）住居跡１、古墳時代中期（約1,500年前）の古墳２，古墳時代後期（約1,400年前）の横穴４を発見しました。

住居跡内の土器

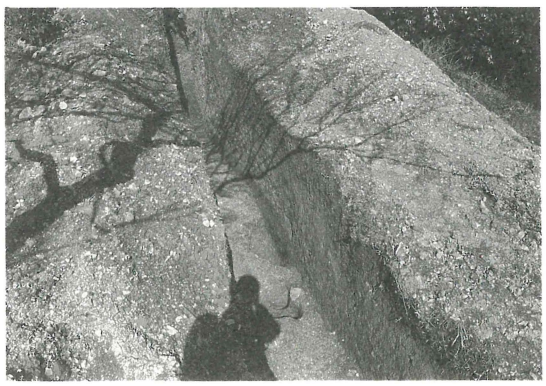
横穴の外から見つかった土器

3. 掛川古城（かけがわこじょう）

1．調　査　地　　掛川市掛川１１０４ほか
2．調査の原因　　龍華院本堂・庫裡建築工事等
3．調査の面積　　１５５㎡
4．調査の期間　　平成11年８月、12年１月～３月
5．調査の内容　　古城は、16世紀の初めごろ今川氏の重臣朝比奈（あさひな）氏により築かれたとされ、土塁（どるい）もこのころのものと考えられていました。調査では、16世紀後半と考えられる井戸や江戸時代後半の埋（う）め甕（かめ）が発見され、土塁は16世紀後半以降のものであることがわかりました。



石組み井戸

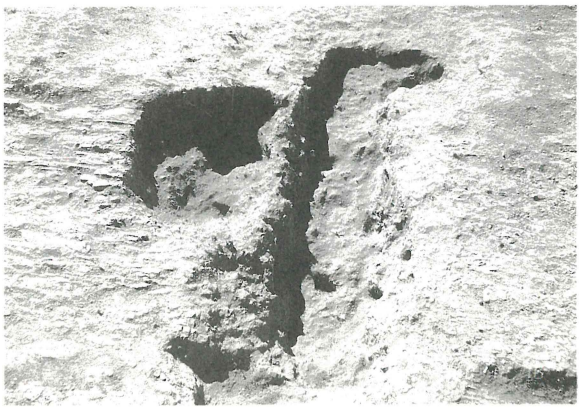


土塁の断面

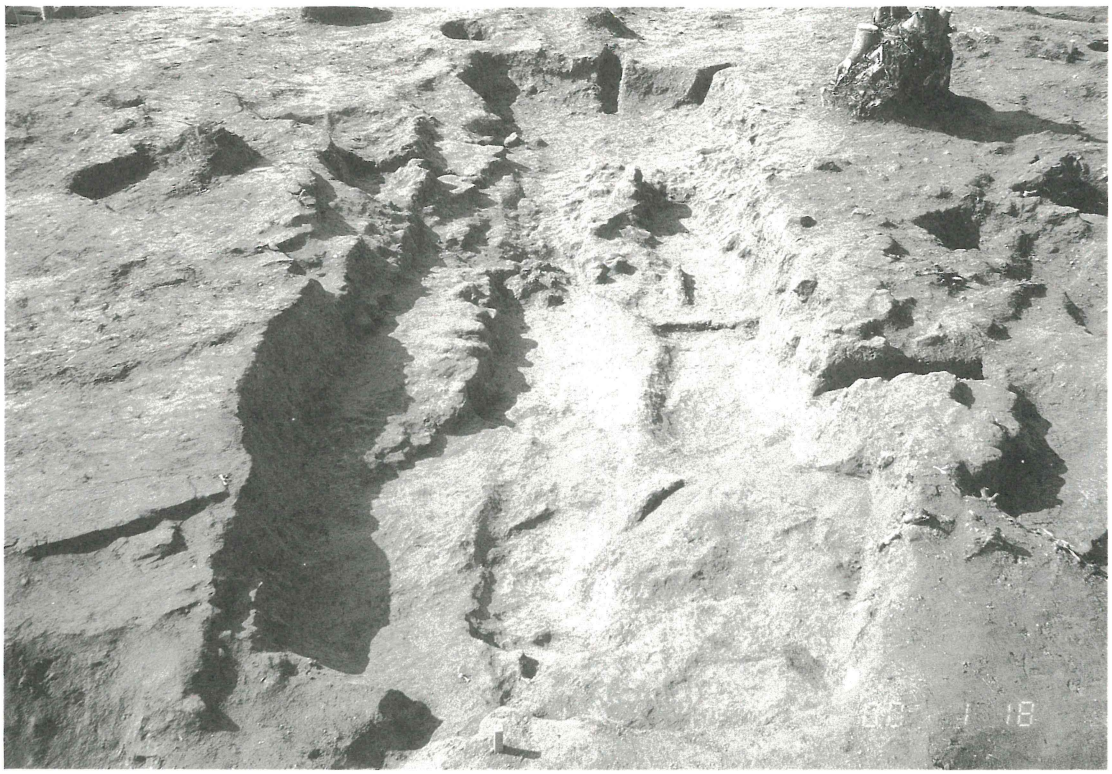
4.栗下古墳

１．調　査　地　　掛川市上張668ほか
２．調査の原因　　土地区画整理事業
３．調査の面積　　５００㎡
４．調査の期間　　平成11年11月～12年１月
５．調査の内容　　調査では、古墳１基と土坑墓１基、江戸時代の火葬墓を確認しました。古墳の主体部（遺体を埋葬した穴）は２つあり、鉄鏃などの鉄製品、勾玉・管玉が出土しました。遺物から古墳時代中期（約1,500年前）に造られたことがわかりました。

江戸時代の火葬墓



土坑墓（土器が出土しました）

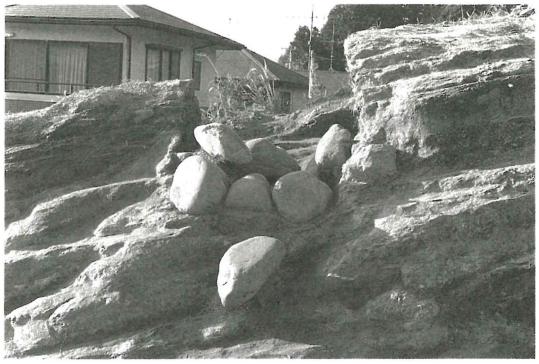


長さ7mの主体部（遺体を埋葬した穴）

5. 七ツ枝（ななつえだ）横穴群

1．調　査　地　　掛川市杉谷３５８－１ほか
2．調査の原因　　個人農地造成
3．調査の面積　　１００㎡
4．調査の期間　　平成11年９月～10月
5．調査の内容　　古墳時代後期（約1,400年前）の横穴が２基見つかりましたが、大きく壊れていて、土器１点と骨片が見つかっただけです。

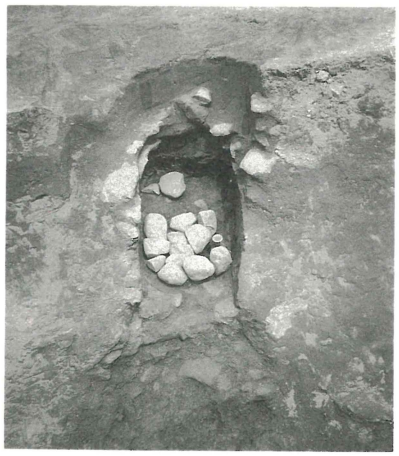
調査地全景



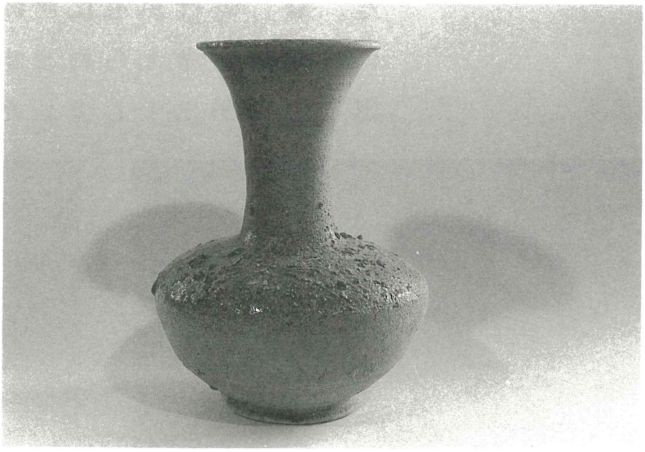
横穴の閉塞石（へいそくせき）

6. 大谷（おおや）横穴群

1．調　査　地　　掛川市千羽1290-1ほか
2．調査の原因　　工場増設
3．調査の面積　　５００㎡
4．調査の期間　　平成11年４月～５月
5．調査の内容　　調査では、２基の横穴を確認しました。農道整備に伴い調査された３０基を合わせると３２基、６世紀末から奈良時代前半まで使用された一大墓地です。



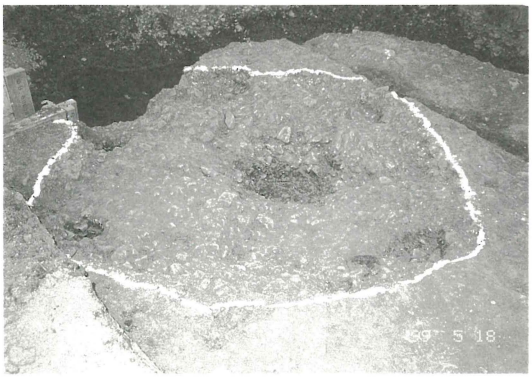
横穴のようす



出土した土器

7. 栗下（くりした）遺跡

1．調　査　地　　掛川市八坂１２３５－２
2．調査の原因　　県営農地整備事業に伴う排水路工事
3．調査の面積　　５６㎡
4．調査の期間　　平成11年５月
5．調査の内容　　調査地は、以前の調査で遺構が多く見つかっており、縄文時代の居住地と考えられます。今回の調査では、小規模な建物の跡と考えられる竪穴（たてあな）状の遺構がみつかり、縄文時代晩期（ばんき）（約3,000年前）と思われる深鉢（ふかばち）１点と、磨石（すりいし）２点が出土しています。



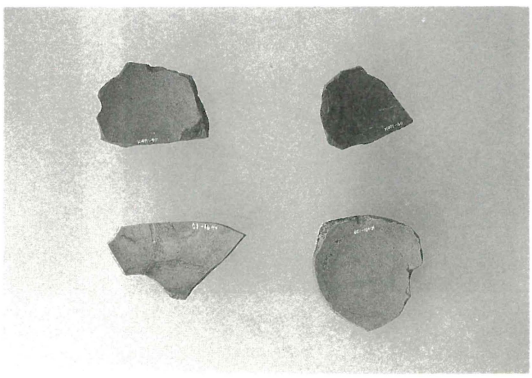
竪穴状の遺構

縄文土器出土状況

8. 牛岡（うしおか）遺跡

1．調　査　地　　掛川市八坂９１４－１ほか
2．調査の原因　　道の駅建設に先立つ確認調査
3．調査の面積　　９００㎡
4．調査の期間　　平成12年１月～３月
5．調査の内容　　調査では、幅１ｍ未満で深さ30～40㎝の溝や直径50㎝前後の柱穴、墓と考えられる穴などが確認されました。鎌倉（かまくら）時代から江戸時代初めごろ（約800～400年前）の集落跡と考えられます。このほかに、縄文時代の土器・石器が出土しました。

柱穴


鎌倉時代の茶わん

9. 旧東海道石垣（きゅうとうかいどういしがき）

1．調　査　地　　掛川市日坂４４２ほか
2．調査の原因　　年代・構造を探るための確認調査
3．調査の面積　　４０㎡
4．調査の期間　　平成12年２月
5．調査の内容　　上段・下段の２段の石垣があり、上段の高さ1.1m、下段の高さ1.3m、上段と下段の間に幅約１ｍのテラスがあります。天保14年(1843)の日坂宿の記録には石垣の長さが記されていて、上段が17間５尺(約３２ｍ)、下段が22間（約40m）とあります。
山崩れから東海道を守るための石垣です。

2段に積まれた石垣のようす

上段石垣のかどの部分

下に遺跡はありませんか？
工事計画の前に確認して下さい

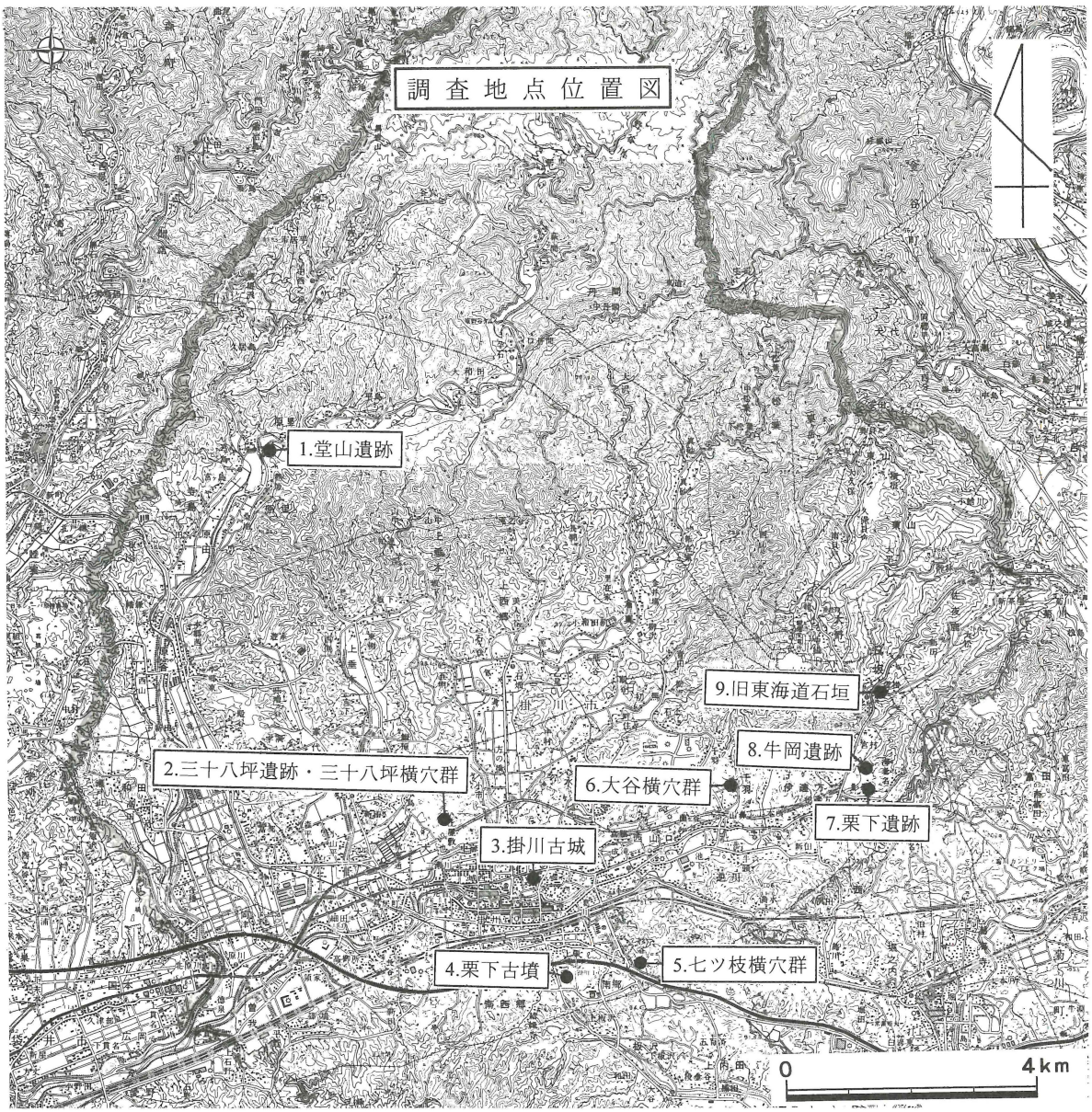
現在、掛川市には５２０もの遺跡があり、県内でいちばん遺跡の多い市だといわれています。こうした遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの〝心のふるさと〟ともいわれ、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

このため、『文化財保護法』で、遺跡のある場所で土木・建築工事や茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届出をすることが義務づけられています。

工事のため申請したが、遺跡の調査で完成が遅れてしまった ―― ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会文化課にご相談ください。

なお、市内にある遺跡の様子を示した『掛川市遺跡地図』があります。計画する前にぜひ確認してください。

掛川市教育委員会 文化課 文化財係　ＴＥＬ（０５３７）２１－１１５８



掛川市「考古の日」

明和９年５月２１日（陰暦）現在の長谷字小出ケ谷地区において、銅鐸（どうたく）一口が発見され、掛川藩に届出されました。これが現在の文化財保護法の遺物の発見届と同じことで、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と、これらを保護・保存しようとする意識の向上を願い、毎年５月２１日を掛川市「考古の日」として設定しました。

文化財愛護シンボルマーク